

論文紹介：

Ono M et al., Int J Clin Oncol. 2023 Jun 15.

doi:10.1007/s10147-023-02366-2

PMID: 37322221

本邦における医療従事者向けがん・生殖医療 e-learning の効果

背景：若年がん患者に対してがんの診断から早期に治療に伴う生殖機能への影響を説明し、がん治療を遅延させることなく、生殖医療を専門とする施設に紹介する体制の整備が本邦において急務である。本研究では、医療従事者に対するがん・生殖医療教育プログラムの教育およびその効果の評価を行った。質の高い医療従事者向けがん・生殖医療教育プログラムを提供しその効果进行评估することで、「患者本位のがん医療の実現」に貢献することを目的とした。

方法：医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなど、さまざまな医療従事者を対象とした教育プログラムの開発を行った。参加者はがん・生殖医療に関する知識および支援方法に関する e-learning 教材による教育プログラムを受講したのちに、受講前後および3か月後のがん・生殖医療に対する知識と自信の変化を評価した。本研究は厚生労働科学研究補助金(がん対策推進総合研究事業)「小児・AYA 世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究-患者本位のがん医療の実現を目指して」(20EA1004)の一部として行われた。

結果：本研究の参加者数は820名であり、参加者の多くががん・生殖医療の重要性を認識していた。受講前後でのがん・生殖医療に関する知識の平均総合得点は有意に向上し(図2)、がん・生殖医療に対する自信も増した(図3)。さらに、参加者は若年がん患者に対して、婚姻状況や出産経験について尋ねるようになる等、医療従事者の行動変容が認められた。

結論：医療従事者向けの e-learning 教材によるがん・生殖医療教育プログラムは、参加者の知識と自信を向上させる効果があった。今後は、より多くの医療従事者にプログラムを普及していくことで、がん・生殖医療の人材育成に寄与することが望まれる。

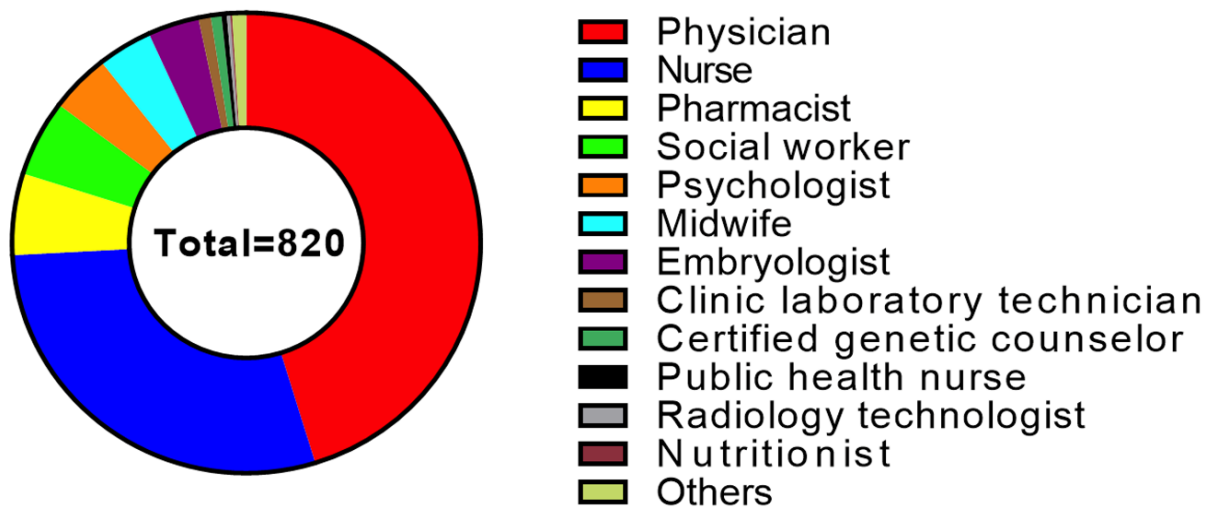


図 1 参加者の内訳 (n = 820)

参加者 820 名は、医師 (n=371)、看護師 (n=237)、薬剤師 (n=47)、ソーシャルワーカー (n=44)、心理士 (n=34)、助産師 (n=31)、胚培養士 (n=29)、臨床検査技師 (n=7)、認定遺伝カウンセラー (n=6)、保健師 (n=3)、放射線技師 (n=2)、栄養士 (n=1)、その他 (n= 8)であった

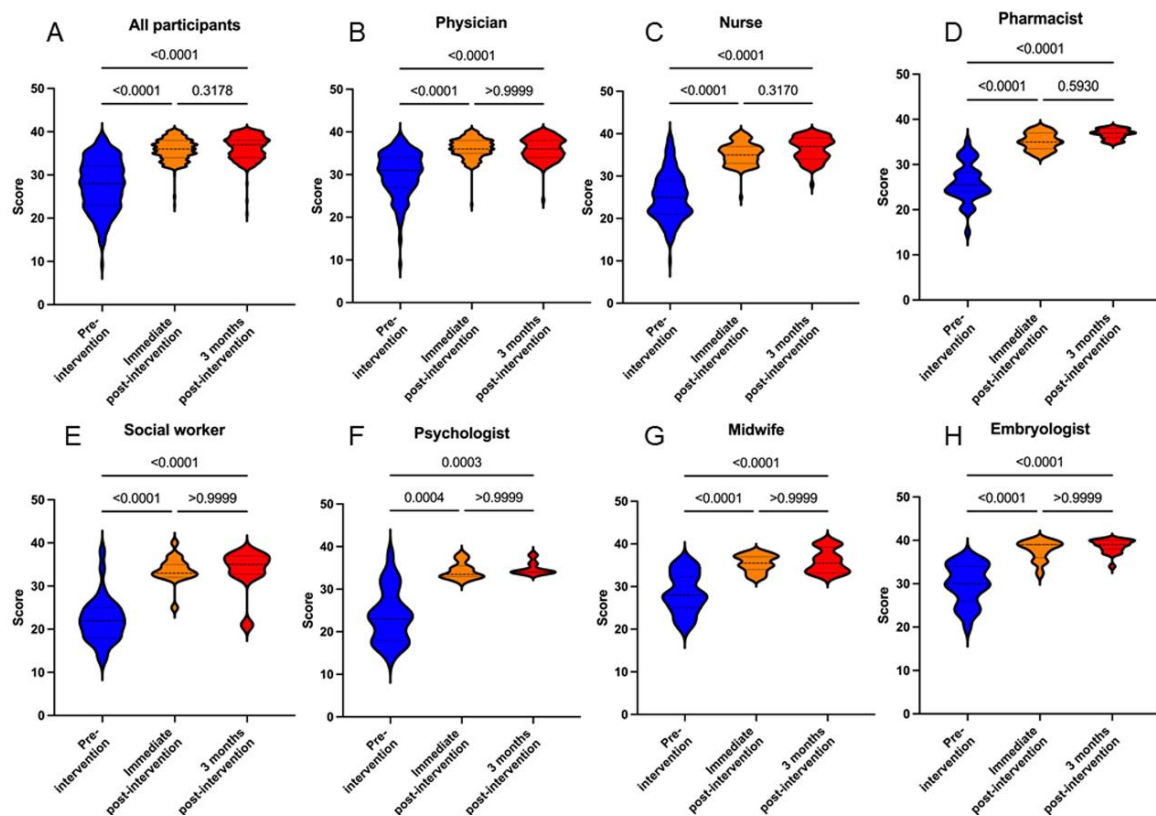


図2 がん・生殖医療に関する参加者の知識スコアの変化

(a) 全参加者の知識スコアの変化: e-learning によりスコアが増加した (b) 医師 (c) 看護師 (d) 薬剤師 (e) ソーシャルワーカー (f) 心理士 (g) 助産師 (h) 胚培養士

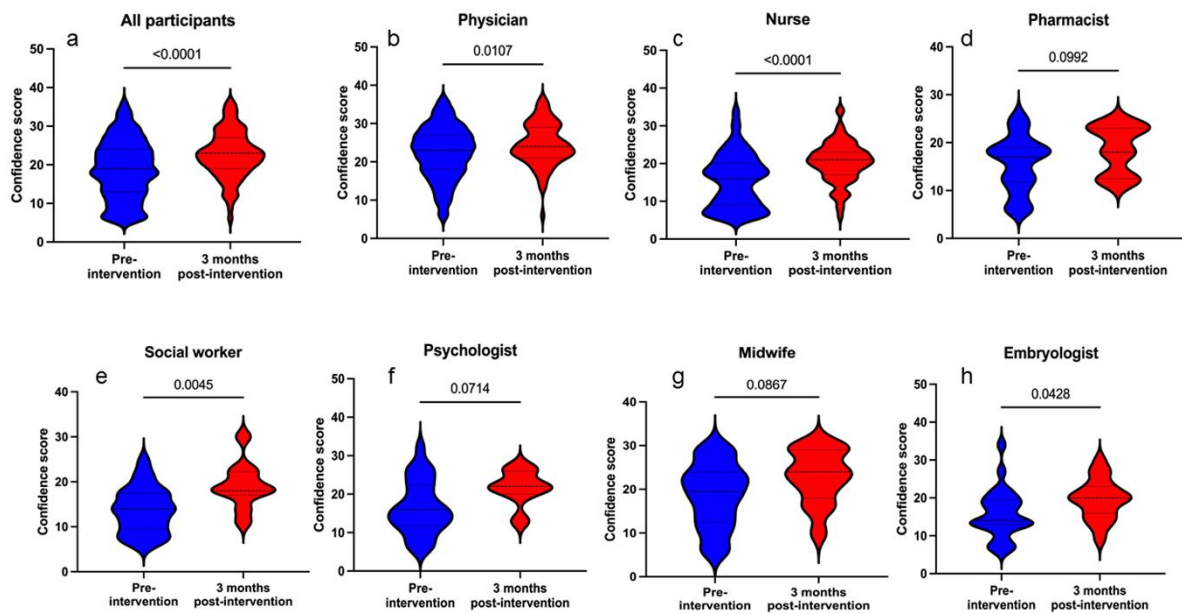


図3 がん・生殖医療に関する参加者の自信変化

(a) 全参加者の自信変化: e-learning により、3 か月の追跡調査でがん・生殖医療に関する自信が増加した (b) 医師 (c) 看護師 (d) 薬剤師 (e) ソーシャルワーカー (f) 心理士 (g) 助産師 (h) 胚培養士